

A 読み

- (1) 一度目=いま (ダ) / 二度目=～ず
- (2) 一度目=すべか (ラク) / 二度目=～ベシ
- (3) 一度目=な (ホ) / 二度目=～ノ (ガ) ごとし
- (4) 一度目=なん (ゾ) / 二度目=～ザル

B 意味・はたらき

- (5) 「将」=今にも～しようとする (これからの予定) / 「当」=当然～すべきだ (当然) / 読みが同じで意味が違う最頻出ペア
- (6) きっと～だろう (推量) / 「当」の当然と区別する
- (7) ～するのがよい (適当)
- (8) 反語 (どうして～しないのか=～すればよい、と勧める)

C 書き下し文

- (9) 未だ多少を知らず / 再読文字は一度目をひらがな、二度目も送り仮名で書く
- (10) 日且に暮れんとす
- (11) 学者須らく志を立つべし
- (12) 君は由ほ父のごときなり / 「由」は「猶」と同じはたらき

D 口語訳

- (13) 私は今にも東へ行って帰ろうとしている。
- (14) 物事は当然このようであるべきなのだ。
- (15) あやまちを犯して改めないのは、ちょうどあやまちがあるのと同じようなものだ。
- (16) あなたはどうしてこれを言わないのか (=言えばよいではないか)。

E 見分けと記述（解答例）

- (17) 一つの字を、一度目は上から副詞として、二度目は返り点に従って下から動詞・助動詞として読む字。（四十四字→短縮可）
- (18) 一度目はひらがなで書き、二度目は送り仮名をつけて書く。二度目は漢字にしない。
- (19) 比況（ちょうど～のようだ）。「猶ほ～ノ（ガ）ごとシ」の形。

F まとめ

- (20) 未・将・且・当・応・須・宜・猶（由）・盍
- (21) 将＝今にも～しようとする／且＝同じ／当＝当然～すべきだ／応＝きっと～だろう（四つのうち三つ書けばよい）

【現代語訳】

①まだかつて（そんなことは）なかったのである。／②花が散ったことがどれほどかまだ分からない。／③私は今にも東へ行って帰ろうとしている。／④日が今にも暮れようとしている。／⑤物事は当然このようであるべきなのだ。／⑥罪人はきっと罰せられるだろう。／⑦学ぶ者はぜひとも志を立てる必要がある。／⑧おまえは自分から努力するのがよい。／⑨あやまちを犯して改めないのは、これはちょうどあやまちがあるのと同じようなものだ。／⑩民が仁徳のある君主のもとに集まるのは、ちょうど水が低いほうへ流れ下るのと同じだ。／⑪あなたは どうしてこれを言わないのか（＝言えばよいではないか）。／⑫君主はちょうど父のようなものである。